平成20年度全国高等学校総合体育大会バスケットボール大会

第61回全国高等学校バスケットボール選手権大会

彩夏到来 08 埼玉総体

平成20年7月31日(木)　　三回戦

Aコート　第4試合　　深谷総合体育館 (深谷ビッグタートル)

チームA			チームB
洛南 京 都	100	29 － 18 22 － 17 29 － 22 20 － 22 －	79	福岡大学附属大濠 福 岡

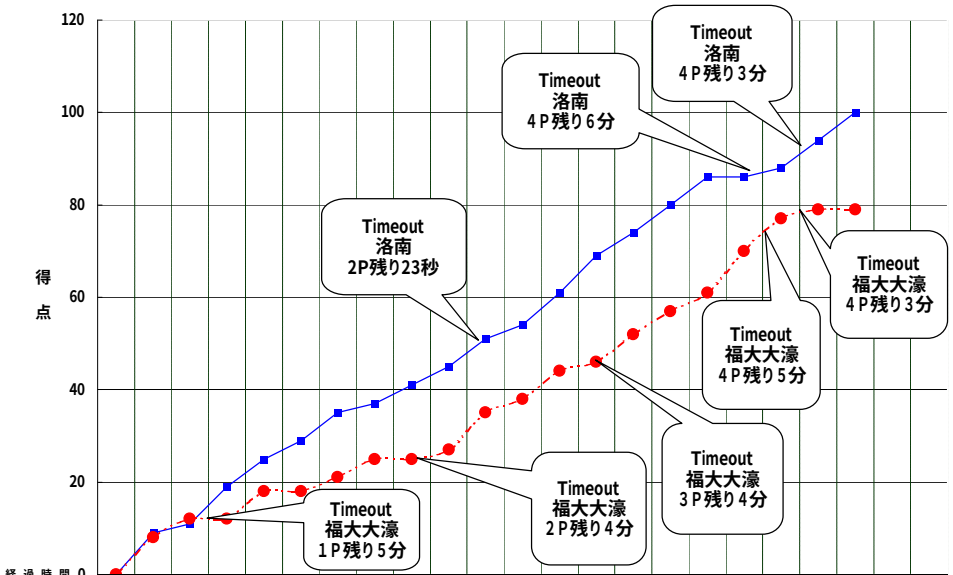
洛南

番号	氏名	出場	得点	3P 成功	3P 試行	2P 成功	2P 試行	FT 成功	FT 試行	反則	リバウンド OF	リバウンド DF	TO	ST	AS	BS	出場時間 単位:分
4	佐藤 将斗	X	7	1	3	2	7	0	0	2	0	4	7	1	9	0	40
5	比江島 慎	X	25	0	1	12	16	1	1	2	4	9	2	1	5	5	35
6	谷口 大智	X	16	0	1	8	12	0	1	3	5	12	2	2	2	1	34
7	藤原 龍介		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	DNP
8	相井 昂大		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	DNP
9	加藤 寛樹	／	16	0	0	7	8	2	3	0	0	2	2	2	2	0	17
10	蛯名 涼	X	10	1	2	3	4	1	1	2	0	0	1	0	0	0	16
11	河上 宗平		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	DNP
12	小林 遥太	／	2	0	0	1	2	0	0	1	0	0	1	0	0	0	10
13	鈴山 高範	X	12	0	2	5	9	2	2	2	3	0	2	0	0	2	27
14	塩谷 亨	／	12	0	1	5	8	2	2	4	0	6	1	1	1	0	21
15	木村 晃大		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	DNP
コーチ	吉田 裕司									0	2	4	0				
出場:×は先発、／は出場			100	2	10	43	66	8	10	16	14	37	18	7	19	8	200
			確率	20.0%		65.2%		80.0%			計	51					

福岡大学附属大濠

番号	氏名	出場	得点	3P 成功	3P 試行	2P 成功	2P 試行	FT 成功	FT 試行	反則	リバウンド OF	リバウンド DF	TO	ST	AS	BS	出場時間 単位:分
4	大下内 仁	X	18	2	4	6	7	0	2	4	1	1	2	4	2	0	40
5	下釜 康輔	／	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
6	大塚 勇人	X	4	0	1	1	4	2	2	2	1	1	1	2	0	0	21
7	上野 翼	X	25	2	5	9	20	1	3	3	0	0	4	1	5	0	40
8	岸 翔太郎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	DNP
9	二宮 弘憲	X	18	0	1	7	15	4	5	2	4	7	2	2	0	2	40
10	長谷川 智伸	／	3	1	4	0	4	0	2	2	0	1	0	0	2	0	20
11	永野 俊輔		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	DNP
12	水口 雅也		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	DNP
13	花田アマースイ真平	／	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	1	1	0	0	8
14	矢嶋 瞭	X	11	1	8	4	7	0	0	3	3	0	2	0	1	0	20
15	藤原 宏伸	／	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	7
コーチ	田中 国明									0	10	7	0				
出場:×は先発、／は出場			79	6	24	27	61	7	14	16	19	17	12	10	11	2	200
			確率	25.0%		44.3%		50.0%			計	36					

2分毎による得点の推移



経過時間	0	2	4	6	8	10	12	14	16	18	20	22	24	26	28	30	32	34	36	38	40
洛南	0	9	11	19	25	29	35	37	41	45	51	54	61	69	74	80	86	86	88	94	100
福岡大学附属大濠	0	8	12	12	18	18	21	25	25	27	35	38	44	46	52	57	61	70	77	79	79

戦評

今大会優勝候補の洛南対福岡大大濠。力のある伝統校同士の注目の一戦となった。

第1P両チームハーフコートマンツーマンでスタート。お互いにポイントゲッター同士が点を取り合うも、中盤、福岡大大濠＃6大塚の負傷交代を境に少しずつ洛南がペースを掴み、11点のリードを取る。

第2Pオフェンスのリズムが上手くかみ合わない福岡大大濠に対して洛南は＃5比江島を中心とするシュート、＃6谷口を中心とする安定したリバウンドを軸に応戦。51－35とリードを広げ、前半を終了。

第3P福岡大大濠は流れを変えるべく、ディフェンスを2－3のマッチアップゾーンにスイッチ。加えて、中盤には司令塔の＃6大塚を投入。＃4大下内、＃7上野、＃14矢嶋のシュートで追い上げを図るも、洛南の落ち着いたゲーム運びに逆に点差を広げられてしまう。

第4P立ち上がりから福岡大大濠は、フルコートのマンツーマンプレスから＃7上野を中心とする思い切りの良い1対1で勝負。残り4分には、11点差にまで詰め寄り、この試合初めて洛南が受けにまわる。しかし、この場面も落ち着いてしのぎ、一試合を通してプレイの正確さで相手を上回った洛南が準々決勝へと駒を進めた。

主審	平 育雄	副審	宇地原 尚彦	戦評	長原 康 (埼玉県高体連)

3P：スリーポイントシュート、2P：2ポイントシュート、FT：フリースロー、OF：オフェンス、DF：ディフェンス、TO：ターンオーバー、ST：スティール、AS：アシスト、BS：ブロックショット